

協働のまちづくり推進委員会（第4回） 結果概要

日時：平成22年7月29日（木）13時30分～

場所：市庁本館 3階 議会第三委員会室

1 出席者（敬称略）

- ・浮木隆委員、北向秀幸委員、佐藤博幸委員、中上千壽子委員、藤村幸子委員、宮崎菜穂子委員 ※奈良卓委員、欠席。
- ・市長、総合政策部長、総合政策部次長、市民連携推進課職員

2 会議概要

- ・市長より、新委員へ委嘱状を交付したのち、委員長及び副委員長の選出を行い、委員長は北向秀幸委員、副委員長は浮木隆委員とすることで、満場一致で決定した。
- ・議事では、事務局より、委員会の概要及び活動計画、協働のまちづくり事業のこれまでの経過及び事業の実施状況について説明したのち、意見交換を行った。
⇒ 委員会の活動計画については、次のとおり進めることで決定した。

【委員会の活動計画】

	時期	内容
22 年 度	9月上旬	(市民提案制度関係) 協働提案事業の審査・選考（12月補正対応） ⇒ 提案があった場合、開催。
	10月上旬	協働のまちづくり施策の検証①
	10月下旬	協働のまちづくり施策の検証②
	3月下旬	(市民奨励金制度関係) 平成23年度市民奨励金応募事業の書類審査（仮審査）

	時期	内容
23 年 度	4月中旬	(市民奨励金制度・市民提案制度関係) 平成22年度実施 市民奨励金事業及び協働事業の評価
	4月下旬	(市民奨励金制度関係) 市民奨励金公開プレゼンテーション審査会 ⇒ 平成23年度市民奨励金応募事業の審査（本審査）
	5月下旬	(市民奨励金制度関係) 協働のまちづくり公開活動成果報告会 ⇒ 平成22年度実施 市民奨励金事業及び協働事業の報告会

協働のまちづくり推進委員会（第4回） 議事概要

日時：平成22年7月29日（木）13時30分～

場所：市庁本館 3階 議会第三委員会室

■ 次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員長・副委員長選出
- 5 議事
 - (1) 協働のまちづくり推進委員会について
 - ・推進委員会の概要および活動計画
 - (2) 協働のまちづくり事業について
 - ・これまでの経過および事業の実施状況
 - (3) その他
- 6 閉会

■ 市長あいさつ（次第3）

- ・当市では、平成17年4月に協働のまちづくり基本条例を施行し、市民と行政の協働によるまちづくりを推進してきた。
- ・平成18年度には当推進委員会を設置し、委員の皆さまから議論をいただきながら、市民奨励金制度や市民提案制度をスタートさせ、一方では、各地区公民館において住民自治推進懇談会を開催して、協働のまちづくりの考え方を周知するなど、各種施策に取り組んできたところである。
- ・平成20年度からは地域担当職員制度を導入し、地域との密接な繋がりの中でまちづくりを進める体制を整えている。
- ・このような各種施策を推し進めることで、市民と行政の協働によるまちづくりは徐々に形づくられてきているが、協働のまちづくりのさらなる推進を図っていくためには、これらの施策の効果を検証し、既存施策の見直しや新たな施策の検討に恒常的に取り組んでいくことが必要と考えている。
- ・今年度は、私が二期目のマニフェストで掲げた施策である「地区公民館のコミュニティセンター機能の拡充」についてもご検討いただき、地域コミュニティのさらなる活性化につなげていきたいと考えている。

■ 委員長・副委員長選出（次第4）

- ・委員長、副委員長の選出を行い、委員長は北向委員に、副委員長は浮木委員に決定した。

〈委員長あいさつ〉

- ・平成17年から行われている協働の試みだが、私は平成18年から係らせていただい

いる。この4年間、様々な施策をこの委員会で検討・審査してきた。

- ・協働については、委員になる以前からこれまでの経験でイメージしていたものがあったが、協働のまちづくり推進委員会に係らせていただき、自分で動き、かつ伝える立場になって、とてもいい経験をさせていただいていると思っている。
- ・自分なりに、これまでの実践と4年間の経験を踏まえて、今回、覚悟を決めて引き受けさせていただいた。
- ・これから説明があるわけだが、今回委員になられた方からの新しいご意見など、新たに気づかされることも多々あると思っている。

〈副委員長あいさつ〉

- ・前回に引き続き、委員を務めさせていただくことになった。
- ・顔ぶれを見ると、地域活動や市民活動に色々な形で参画されている方々であり、八戸市の進める協働のまちづくりの検証、或いは審査についても、皆さまの経験等を活かして、色々な意見を出し合いながら、この会をいいものにして進めていければと考えている。

■ 議事（次第5）

(1) 協働のまちづくり推進委員会について

- ・事務局より、資料1に基づき、委員会の概要及び活動計画を説明したのち、意見交換を行った。内容は次のとおり。

●委員

- ・市民提案制度について、現在、どこかから相談とかはあるのか？

●事務局

- ・現在のところ、相談はない状況である。

●委員

- ・(21年度の)委員会開催回数が7回だが、実際はこれ以外にも、委員会とは別な扱いになるが、委員の方々から意見を聞くために出ていただきたいという準備のための会議(市民提案制度における事前協議)がある。どのように会議が行われているかは、実際に見ていただければと思うので、ご協力をお願いしたい。

●委員

- ・この事業(市民提案制度)について、市民に告知するための広報活動はどのように行っているのか？

●事務局

- ・市民提案制度の公募に関しては、毎月「広報はちのへ」に市民の皆さまから市と協働で行いたい事業等についての募集を行なっている。

●委員

- ・それ以外には？

●事務局

- ・その他に恒常的には、公民館や支所といったところに、市民の皆さまからの提案を募集

しますというチラシを常時設置させていただいている。

●委員

・今の発言は応募の数がもう少しあればということで話されたのか？

●委員

・応募があればいいのかなと思い…。

●委員

・確かにその通りだと思う。市のホームページには、その辺を載せているのか？

●事務局

・提案制度については、制度説明のページと提案募集のページを作っている。

●委員

・先程の件について、市のほうで行っている報告会（協働のまちづくり活動成果発表会）というものがあるので、私はすごくそれを参考にしていた。告知とかの以前に、自分達がどういう活動をするのかということ、やはり見て、報告するということが大切だと思う。

●委員長

・他に何か？（⇒なし）

・それでは、来年5月までは、このようなスケジュール（資料1）で進めていくことでいいか？（⇒委員了承）

■ 議事（次第5）

(2) 協働のまちづくり事業について

・事務局より、資料2・資料3に基づき、協働のまちづくり事業のこれまでの経過及び実施実況を説明したのち、意見交換を行った。内容は次のとおり。

●委員

・先程、私は平成18年から委員をやっているとやったが、よく考えたら平成17年からやっている。ちょうど基本理念ができた頃に委員になり、やってきた。

・平成15年、16年と基本理念を策定してきたわけだが、実際に審査等をする際には、八戸市が考える協働のまちづくりにマッチするのかなど、結構意見が出る。実際、去年、ある事業者から提案のあった事業について、それが果たして協働になるのかなど、議論したことがあった。今後も審査の際には、八戸市が考える協働のまちづくりということについて、立ち返りながらやっていくことになると思うので、過去の資料は膨大だが、その辺を思い出させていただくような按配にしていればと思う。

●委員

・協働については、去年委員になったばかりで、全ての資料に目を通しておらず、まだ勉強中である。

・今回、二人の方が委員になられたわけだが、去年は協働の考え方について委員の皆さんと勉強しながらという形で進めていたので、焦らずやっていければと思う。

●委員

・私もあいだを跳んで2年係らせてもらった。〇〇委員さんは一番最初のときにコミュニ

ティ指針のほうで。

●委員

・私はコミュニティ（振興指針検討委員会）のほうで、公民館回りをした委員である。

●委員

・私は条例（検討委員会）のほうの委員だった。

・去年の市民提案制度で思ったことがある。市設定テーマに無理がないかということがあり、やはり、よく考えないといけないということを思った。具体的には総合型地域スポーツクラブなのだが、提案されたとしても、それは無理だと断ることも逆に必要なことなのかなと考えたりした。提案される側もよく考えて、先を見越してからでなければ、駄目かなと思っていた。

・地域担当職員制度について、地域担当職員が頑張っているところは、やはり地域活動も活発になってきている。職員の活動がすごく重要だと思うので、これからもお願いしたいと思っている。

●委員

・協働のまちづくり研修会について、去年は市制施行 80 周年記念でウェルサンピアだったが、今年はどうのような計画なのか？

●事務局

・今年度については、まだ内容が決まっていないが、11 月中には開催したいということで考えている。

●委員

・平成 15 年から協働の取り組みをしてきたわけだが、当然その前身がある。平成 14 年には市民活動サポートセンターができていて、（協働のまちづくり）市民会議のような形で市民活動について色々と議論してきたことがあったり、それが脈々と続き現在に至っている。

・八戸市の協働のまちづくりの施策については、地方都市としては進んでいるのではないかと考えているが、他都市からの情報提供や視察の依頼などは、結構多いものなのか？

●事務局

・去年は約 20 自治体、200 人くらいが視察に来ている。資料提供については、頻繁に電話等で依頼があり、メールなどにより随時提供している。

●委員

・視察に来られる方々は、どういうことを求めて八戸に来ているのか？また、八戸の取り組みでスゴイと言われる部分はこういった部分か？

●事務局

・最近のテーマで多いのは地域担当職員制度であり、次いで市民提案制度となっている。

・八戸市の協働のまちづくりは行政側が敷いたものではなく、市民の皆さまに対して、できる方々はやってくださいという後方支援的な進め方をしており、あくまでも市民の皆さまが主体にやっているので、その辺のところを他市の方々は違うと言っている。

●委員

・地方都市、大都市とあるけれども、こういったところから、どういう方々が視察に来ているのか？

●事務局

- ・八戸市より小さい都市のほうが多い。ただそれだけではなく、福岡市のような100万都市や浜松市などからも視察に来ており、議員の方々、あとは職員で興味がある方などが来ている。

●委員

- ・今、ちょうど商工会議所のある委員会で、またフィールドワークをやっていくところなのだが、八戸というまちは微妙な範囲であり、全体をカバーするとなると非常に大きくボリュームがあるということを調べて感じた。小さいところのほうが、まちも固まりやすいのかなと思いながら、八戸市を捉えている。そういう意味では、地域担当職員をこれだけの地域に出すというのは、それだけでもかなり手間が掛かることだと思う。そういった部分も感心されるのかなと思う。

●委員

- ・地域担当職員と地域の波長がピッタリ合えば、スムーズに進んでいけようし、地域ができるだろうと思って沢山メニューを出すと潰してしまうこともあるので、その加減というか、その辺で地域担当職員は難しい部分もあるのかなと思う。常にいいというのはあり得ないので、駒になるような形で支援していければいいという感じがする。

●委員

- ・以前に一度聞いたことがあったと思うのだが、地域担当職員の配置については、職員の希望も加味しての配置なのか？どういう形で配置をしているのか教えていただきたい。

●事務局

- ・地域担当職員は全て公募で、皆さんから手を挙げていただいている。その際に自分がどこの地域を担当したいかという希望を取っている。一つは自分の出身地や居住地域、もう一つは全く居住とは別の地域ということで、統計を取ってみたら、大体半分ずつぐらいで、自分の出身地域に貢献したいという方、あとは自分の出身地域だとなかなか物が言えないという方に分かれている。

●委員

- ・選挙のときに感じるのは、その地域出身の人達が結構窓口に座っているということ。ああいう形で住民と交わるということが、すごく大事ではないかと思ひ、いつも見ているのだが、やはり言いづらい部分もあるようですね。

●事務局

- ・半分が仕事で、残り半分がボランティアな気持ちでやっている状況なので、やはり、やりやすい環境を作るというほうが、良いのではないかと思っている。

●委員

- ・協働のまちづくり推進基金について、19年度の寄附金が非常に多くなっているが、これは何か？

●事務局

- ・企業から大口の寄附が1件あったためである。

●委員

- ・地域コミュニティ計画について、22年度の計画作成支援に関してはどのような状況なのか？

●事務局

- ・22年度は計画を策定していない地域の中で、考えがある程度まとまっている地域と、それ以外の地域に分けて、6月後半から直接担当者が地域を回っている。全てではないのだが、今、2・3地域で計画づくりを考えてもいいかなということで進んでいる。あと、白山台については、地域担当職員が中心となって、プロジェクトチームではないが、若い人達も集めていこうかなということで計画づくりを検討しており、連合町内会長さんと話を進めているところである。

●委員

- ・市民奨励金の地域づくり応援コースについて、21年度は大館地区で史跡案内板設置ということだが、今年度は根岸が相談にきているということだが？

●事務局

- ・まだ申請はないが、検討している途中である。

●委員

- ・どのような事業なのか？

●事務局

- ・地域カルタを作りたいということで相談を受けている。

●委員

- ・うちの場合は、個人が集まって作ったカルタだから、それを小学校や地域で使って何かをやりたいと言っても、そこで待ったが掛かる。その人達に使用許可というか。

●委員

- ・では、そんなに普及はしていないのか？

●委員

- ・だから、子どものカルタ大会のときには、使用許可を取ってやっている。

●委員

- ・地域づくり応援コースの認知度は、どうなのか？

●事務局

- ・地域づくり応援コースは、基本的に計画を作った地域でしか使えない制度のため、今年度に入って6・7月と全地域を回って連合町内会長さん、連合町内会の役員の方々に説明をしてきている。

●委員

- ・初動期支援コースも地域で使えるので、その辺のすみ分けのようなものがあるのかと思っているけれども、地域づくり応援コースのほうは、使い方によっては使いづらいのかもしれないと少し感じる。

●事務局

- ・今回、地域を回ってみて、早い段階で計画を作った地域は、地域づくり応援コースを想定しないで計画を作っているのだから、こういう制度があるのであれば、少し計画を見直して掲載事業を増やしたいという地域もあったようである。

●委員

- ・地域コミュニティ計画は、現在7地域できている。全ての地域で計画を作れば一番いいと思うのだが、昔に計画を作った、例えば18年度の南郷の計画については、5年ぐ

らのスパンなのか？それとも10年ぐらいのスパンなのか？

●事務局

- ・地域コミュニティ計画は、行政計画のように何年スパンと期間を決めているものではなく、計画の作り方もまちまちというか、一つの事業をそのうちとか、やれたらとか、そういう形で作っている。地域によっては、金銭的、人材的なことなどで、やりたくてもなかなかやれない事情がある。例えば、19年度に計画を作った小中野ではまだ実現していない状況になっている。

●委員

- ・18年度に作った南郷の計画は、19年度からの活動計画なのか？それとも、18年度からの活動計画なのか？

●事務局

- ・南郷の計画は少し特殊である。合併に伴ってできた計画なので、行政計画に近いものになっており、年度がきっちり決められており、役割分担も決まっている。

●委員

- ・地域コミュニティ計画は、あまり難しく考えられると作られなくなってしまう。やはり、できればやるというもので、行政計画のように5年、10年というものではないですよということを理解すれば次々と出てくると思う。構えてしまっている部分もあるのかなと思う。実はヒアリングをすれば、ペーパーに書き出せば計画になってしまう地域も実際にあると思う。また、やはりこういう計画を作った場合、何年か経ったらローリングしてみることも必要だと思う。

●委員

- ・階上町では全地区で計画を作っているが、初歩的で簡単なものもあれば、本当に素晴らしいものもあり、結構差がある。色々な見本を見せてあげるといいかもしれない。

●委員

- ・地域コミュニティ計画を策定しているというのは、市に出しているという感じなのか？

●事務局

- ・地域づくり応援コースを作った21年度からは登録していただいている。計画を登録していただくことで、その計画の登載事業に対して市が助成金を出しますという制度になっている。

●委員

- ・計画を登録しているのが、ここ（資料3・3ページ）に載っているということでもいいのか？

●事務局

- ・まだ（計画を作っている地域）全部に登録していただいているわけではない。

●委員

- ・例えば、概要とかであれば市川でも出していないのかなと思うのだが？どう違うのか？

●事務局

- ・実は、市川にも7月上旬に伺ったところであり、連合町内会長さんは非常に乗り気である。ただし、今、地域の体制が整っていないということで、順次取り組んでいきたいと

いうことで回答はいただいていたところである。

●委員

- ・関係があるかどうか分からないのだが、うちの地域は、地域コミュニティ関連について、市の方々に来てもらって説明していただいて、自主防災組織を立ち上げたり、そして先日には、体育振興会というのがなかったのですが、その組織もできたりで、整っている地域と違って、白銀という地域は未開の地域かなという観念があった。市のほうで説明しに来てくれて、今は地域の人達が少し理解をして盛んに取り組んでいる。地域によっては難しい説明では理解能力がついていかないので、やはり地域の人達が分かるように説明をしてくれたということが、白銀にとっては良かったと思っている。当初は住民自治推進懇談会やまちづくりといっても、その意味すら理解できず、みんな一緒に考えていた。それを住民自治推進懇談会はこういうもので、協働のまちづくりはこういうもので、出前市役所はこういうものだという、そういう説明がすごく大切だったと思う。

●委員

- ・出前市役所は、まだやっているのか？

●事務局

- ・以前、出前市役所は苦情・要望を受け付けるということでやっていたのだが、現在はやっていない。ある程度、苦情・要望が出尽くしたということで、また、地域担当職員制度が始まり、恒常的に苦情・要望を受け付けて担当課が検討し地域に回答するという流れができているので、現在はやっていない。

●委員

- ・活動されている方の体験が出たけれども、今後、実践をして、理屈というか基本を考えていくパターンでいいと思う。非常に心強く感じながら話を聞いており、よかったなと思っている。

■ 議事（次第5）

(3) その他

●委員

- ・最後のその他について、これまでの話、また協働のまちづくり全体について何かご意見はあるか？（⇒なし）
- ・制度の仕組みは、前任の前山委員長にしっかりと組み立てていただき大分できあがっていると思っているので、この制度・仕組みを活かす各地域やNPOのような団体に向けて、すでにされているとは思いますが、活用してもらえようPRを委員の皆さんにお願いしたいと思う。